動詞を完全制覇するゾ！（協調学習編）

✩ねらい

　　be動詞と一般動詞（３単現のsを含む）の英文の違いがわかり、それぞれの文を疑問文・否定文に書きかえることができる。

✩扱う場面

　　１年生、3単現のsを学習したあと、これまでの動詞の復習を兼ねて、動詞を見分ける、動詞によって疑問文・否定文に書きかえるルールに慣れるためのドリル学習として扱う。

✩指導の手順と留意事項

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動 | 指導の仕方・留意点等 |
| ①【エキスパート活動】  be動詞、一般動詞、３  単現のsの文のルール  をそれぞれのグループ  で確認し、疑問文・否定  文への書きかえをする。 | ・be動詞を制覇するグループ、一般動詞を制覇するグループ、そして３単現のsを制覇する３つのグループに分ける。  ・それぞれのグループで、相談しながらプリントに沿って、【１】から  【３】までを解かせる。このグループでは教え合うことが大切。ど  の生徒も自分のグループの項目について、専門家（エキスパート）  にさせる。  ・プリントの下にあるまとめの部分を記入させる。まとめをさせた後、ジグソー活動に移らせる。 |
| ②【ジグソー活動】  グループがちがう３人  が新しいグループとな  り、①のエキスパート活  動でまとめたことを、お  互いに発表し合う。 | ・ホワイトボードなどを使い、自分が制覇した項目について、他の２  人に説明をさせる。（例：be動詞を制覇したグループの生徒には、一般動詞を制覇した生徒と３単現のsを制覇した生徒に説明させる）。  ・お互いに質問したり、その質問にきちんと答えたりできるようになることが望ましい。 |
| ③【クロストーク活動】  お互いの説明を聞いた  後、３人で一緒に問題を  解いていく。 | ・be動詞、一般動詞、３単現のsを含む英文を、疑問文・否定文に書  きかえるドリル学習を行わせる。あえて応用問題を入れ、エキスパートの生徒がリードできる場面をつくる。 |
| ④ 書きかえた疑問文・否定  文の答え合わせをし、英  文を音読練習する。 | ・３人で一緒に解いた疑問文・否定文の答え合わせをし、英文の音読  練習をさせる。 |
| ⑤ 自己評価を行う。 | ・動詞の違いがわかったか、疑問文・否定文への書きかえができる  ようになったかの観点で自己評価をさせる。授業の感想を書かせる。 |